

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401134		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム千葉小倉		
所在地	千葉市若葉区小倉町1802-15		
自己評価作成日	平成22年4月20日	評価結果市町村受理日	平成22年7月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉市中央区千葉港4-4労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>各御入居様が第2の家として穏やかに過ごせる様一人一人のペースに合わせた支援を行っている。又、季節の花を庭に沢山植え、ご入居者様とお花見を楽しめる場を作っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>愛の家は、全国100ヶ所以上にグループホームを展開しており、経営・管理面は母体法人の担当者が担当している。そのためホームでは、ケア・サービスに集中できる利点がある。この1年間に特に力を入れたのは、足浴の奨励、週2回のラジオ体操実施、入居者全員での外出実行である。どれも入居者の高齢化による介護度アップを考慮し、足浴や体操で血行を良くしたり、重度でも皆で外出する事により、気持ちの上での張り合い増を目指している。入居者の居室も、消防署の指導を受けて、1階は介護度が高い人、2階は自立度が高い人に配置し直し、自分らしく最期までホームで過ごせるよう、ケアチームを組んでいる。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(クローバー)および外部評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	千葉小倉運営運営理念を基本とし利用者の個々の思いをくみ取るケアに努める。	ビジネス基本10ヶ条という法人理念のほかに、ホーム長と職員がともに作り上げたホーム独自の理念「地域でその人らしく暮らす」がある。常に唱和し、職員全員が毎日意識してケアを行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれている夏祭りにホーム全体で参加している。回覧板を入居者と一緒に届けている。	ホームで行われる夏祭りには、近所の子供のほか職員の子供も手伝いに来てくれる。また、地域の中学生の職場体験を受け入れ、学校での発表会にホーム長が参加するとともに、認知症の講演も行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の事で相談があった場合、介護相談を承っている。又、必要に応じて関連事業所に連絡している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・事故報告・今後の対策・ホームでの取り組みなど伝え、意見交換の時間を十分にとっている。	家族、民生委員、地域包括支援センター、近隣ホームの管理者などが参加し、昨年は6回開催した。議題は行事予定や事故報告が中心で、事故予防の対策などを話し合った。欠席の家族には議事録を送付している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主にホーム長・ケアマネージャーが担当者様と話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の高齢者福祉課とは、介護保険制度や事故報告などで頻繁な情報交換を行っている。また、民生委員とはケアサービスの内容について話し合っている。新任の市職員の勉強の場になったこともある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長・ユニットリーダーが身体拘束の研修に参加し、スタッフ会議時に身体拘束のないケア方法を伝え取り組んでいる。	身体拘束をしないケアに全職員で取り組んでいる。日常のケアは、見守りや介助が中心である。玄関ドアは開放している。徘徊のある入居者には、居室ドアや布団に鈴をつけ、行動を把握できるよう工夫している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	千葉市の身体拘束基礎研修に参加しホーム内で話し合いの時間をもうけている。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(クローバー)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者がいない為、学ぶ機会を設けていないが、今後活用することも考えられるので学ぶ機会を作る。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様と面談の時間を十分にとり、理解の上で契約を結んでいる。又、ホームの取り組みについても説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の不安や訴えに対し会議で話し合い、管理者から運営推進会議などで報告している。	ホーム長は家族面会時には時間を作り、居室で要望や意見を聴くようにしている。また、ケアマネジャーも家族との交流を大事にしている。入居者の意向は会議で話し合い、結果を運営推進会議で報告している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議以外にも何時でも意見・提案がある時は時間を設けている。	職場は意見を言い易い雰囲気である。ホーム長は職員と個人的に話をしたり、休憩時に話しを聴くなど、意見を聴く機会を作っている。職員の意見を反映した内容で外出支援を行った。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全スタッフが向上心を持って働ける様、各スタッフの課題・今後の目標を交えアドバイスを行なっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに合わせた研修に参加し研修報告を通しホーム内勉強会を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に管理者が外部の研修に参加し交流を持ち勉強会・相互訪問等の活動を予定している。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(クローバー)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の困っている事、不安なことを傾聴し必要に応じ直接お会いする時間を作り受け止める努力をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様の不安や要望を傾聴し理解し受け止める努力をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>御本人様とご家族様の立場に立ち、柔軟な対応を心掛け場合によっては関連事業所に結び付けられる様努力している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様を人生の先輩として学べる機会である。料理・行事・畑など知恵を引き出せる様声掛けしている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時、電話連絡・月1回手紙等で情報を共有しホームの行事等に参加して頂いている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの場所の話題がある時は、傾聴しドライブに出かけている。知人・友人が気軽に来て頂ける様環境を整えている。</p>	<p>馴染みの商店や自宅迄のドライブを行っている。行きつけの美容室や墓参りなどは家族の協力を得ている。知人が訪ねて来る入居者もいる。年賀状は毎年家族へ出せるよう支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士の関係が円滑になる様、スタッフが間に入りきっかけ作りを行なっている。</p>		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(クローバー)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、必要に応じて相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様の思いを傾聴し、またご家族様からお話しを伺い個々のケアを大切にしている。	比較的介護度が軽い2階の入居者は、思いや意向を職員に伝えている。重度化が進んでいる1階の入居者については、家族からの情報などを元に、職員が表情や雰囲気などで意向を汲み取っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も定期的にアセスメントを行っている。又、ご家族様面会時に相談し馴染みやすい環境を整えている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を、介護記録・日報にて情報を共有し、その時の状況に合わせ支援出来るよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議前に、全スタッフがモニタリングを行い、ケアマネージャーが集約した資料を基に話し合い、次のプランにつなげている。	計画作成担当者は、ユニット会議や居室担当職員の情報を元に計画を作成している。家族の意向は面会時や電話で確認する。必要に応じて関係各所と連携をとっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの課題を意識・実践し、それに対してのご家族様の反応を記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限りその時々々の要望に応じた対応を行なっている。訪問理容が2ヶ月に1回から月1にしたり、楽器演奏の場所の提供など。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(クローバー)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、民生委員と意見交換を行っている。中学校の職場体験で交流の機会を持っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医と連携体制が整っている。2週に1度の往診以外にも必要時、適切な医療が受けられる様支援している。	重度化する入居者が増加し、ターミナルケアを実施している。医療連携体制加算を取り、医師・看護師と密に連携をとっている。定期的に訪問診療を受け、入居者の健康管理をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に毎週訪問して頂き、日々の健康管理・相談・助言を頂いている。24時間体制も出来ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行っている。スタッフが細めに見舞いに伺う様になっている。退院時は医師・看護師から留意点を伺っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人・家族・医師と早い段階から話し合いを行い、その人らしい穏やかな生活が出来る様支援している。	住み慣れたホームで終末期を過ぎて貰うよう、チームを組んでいる。昨年は2人、ホームで看取りを行った。ターミナルケアに携わる職員は、ホーム長が面談し、職員本人の意思確認をしたうえで、決定している。ターミナルケアチームの職員の、心のケアにも気を配っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを用意し、定期的に勉強会を実施している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回実施している。	火の元の確認には気を配っており、避難訓練も定期的実施している。2階からの避難は階段のみとなるが、入居者全員が必ず避難できるよう、マット等の検討も行っている。	災害時、全入居者が必ず避難できるよう、階段以外の避難経路や手段も検討していくことが期待される。また、近隣住民との連携体制も構築しておくことが促される。

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(クローバー)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者様の誇りやプライバシーを損ねる事がない様、申し送りノートに記入し統一したケアを行なっている。	職員の対応は優しく丁寧で、ゆったりと温かい雰囲気が見受けられた。特に排泄の声かけには気を配っている。マナー心得の唱和を行い、職員には常に意識付けしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の希望に出来るだけ添える様支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者様のペースを大切に過ごしやすい環境を整え、無理のない支援をする様努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に来て頂いている。毎日の身だしなみはスタッフが気遣い、素敵な時はお声を掛けている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付けなどスタッフと一緒にいる。スタッフは常に感謝の気持ちを込めて御礼を言っている。	1日3食1000円と、比較的安い料金設定であるが、手作りの美味しい食事が提供されている。利用者の食事量等を集約し、法人本部が献立作成している。ホーム個々の要望や独自メニューを取り入れることもできる。職員も一緒に食卓を囲んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量・1ヶ月単位の一覧にしている。月1回体重測定を行い増減ある時は医師と相談している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け必要に応じスタッフ介助し、口腔内の清潔保持に努めている。		

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(クローバー)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導することで紙パンツから布パンツへ移行している。	排泄の自立をこころがけている。一部の重度の入居者を除き、日中はトイレで排泄できるよう、誘導している。夜間についてはゆっくり睡眠をとるため、オムツで対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量・適度な運動の働きかけ、水分摂取量の少ないご入居者様には好みの飲み物の提供を行い、脱水にならない様支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	御本人様の体調・意思を確認し楽しく入浴して頂ける様支援している。入浴は日中のみの為、夜間は足浴で対応している。	概ね週3回、入浴するようにしている。シャワーは随時使用できる。入浴をしない入居者には必ず足浴を施している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人様の生活習慣を大切に、休憩したい時に休める様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診報告・ノートにて全スタッフが把握している。薬の処方の変更追加された時は、薬ケースに記入している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント、御本人様のお話の中から役割・楽しみを見つけ張りの合いのある生活が出来る様支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望のあるご入居者様と定期的に買い物に出かける。又、ご家族様にも協力して頂き食事・墓参り等に出かけている。	地域の行事には積極的に参加している。買い物をしたい入居者は、何人かでまとめて職員が送迎している。散歩や庭の畑仕事などは日常的に行い、外気に触れている。外出の希望は、入居者の状況に配慮しながら対応している。	入居者全員での外出行事なども始めており、今後も入居者が行きたい場所、楽しめる場所に外出支援していくことが期待される。

愛の家グループホーム千葉小倉 自己評価(クローバー)・評価結果(全体)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと一緒に買い物に行った時は、一緒にレジに並びお金の支払いを行なっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に家族に電話がかけられる体制を整えている。手紙のやりとりも支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感がある様、花や飾り付けを行なっている。臭いに気をつかい、細めな換気・消臭剤の使用を行なっている。	シンプルな装飾と家庭的な雰囲気を大事して、環境整備している。季節の花や入居者の写真を飾り、明るくいごちのよいリビングである。廊下の隅にはベンチを設置し、個々にくつろげるスペースも作られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、気の合った利用者同士で過ごせる様、共用廊下奥に空室を設けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前から使用されていた家具や道具をお持ち頂き、居心地良く過ごせる様環境を整えている。	1階は重度の入居者が多いため、カーペットに布団を敷き、マットなどで転倒時の安全対策をしている。2階の居室は、私物を持ち込み、自分らしい部屋作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御自分のお部屋がわからない方には、分かり易い様目印をつけてある。トイレも同様。家具の配置は安全確保に配慮している。		